



令和7年 1月号
 練馬区立開進第二小学校
 校長 椿田 克之
 栄養士 大野 美里

新しい年を迎えました。ぜひいい年にしたいですね。1年間を健康で元気に過ごすための目標をそれぞれ立ててみましょう。1月には全国学校給食週間があります。学校給食の歴史をふり返り、その意義や役割をあらためて考える1週間です。

おせち料理の願いを知ろう!

おせち料理は、もともと季節の変わり目の節日に食べる料理のことです。しかし今ではお正月に食べる料理のことだけを「おせち料理」というようになりました。おせち料理には、それぞれ次のような願いが込められています。



たい

「めでたい」にかけて食べられる縁起のよい魚。



えび

長いひげが伸び、「腰が曲がるまで長生きできますよう」と願う。



昆布巻き

「昆布」が「よろこぶ」に通じ、1年楽しく暮らせるように願う。



田作り・ごまめ

昔、干したいわしを田の肥料にしたことから豊作を願う。



たたきごぼう

豊作になる年に現れるという、めでたい鳥(黒いつる)に似せて、豊作を願う。



黒豆

「まめ(元氣)に暮らせるように」と願う。黒は魔よけの色とされる。



かすのこ・さといも

「子宝に恵まれ、家が栄えるよう」と願う。



くりきんとん

富を願う金色のきんとんにめでたい「勝ちくり」をあしらう。



だて巻き

昔の書物(巻本)に似ているので学業成就を願う。



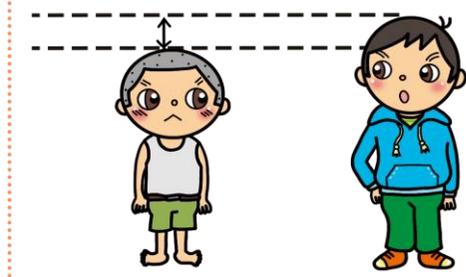
ぜんこくがっこうきゅうしょくしゅうかん 全国学校給食週間

1月24日から30日までは全国学校給食週間です。

昭和20年(1945)年戦争が終わったばかりの日本では食料が不足し、栄養不足の子どもたちがたくさんいました。給食も戦争で中断されたままでした。



そのころの小学6年生の体は、今の小学4年生くらいの背の高さだったといえます。



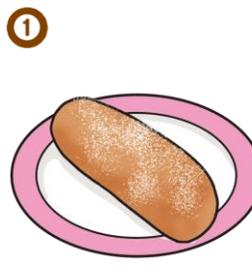
この日本の様子を見て、外国から食べ物への援助がたくさん送られてきました。こうして昭和21(1946)年12月24日学校給食がふたたび始まりました。



12月24日は冬休みだったので、1か月遅らせた1月24日から「全国学校給食週間」が行われます。給食に感謝し、その意義と役割を確認する1週間です。



全国学校給食週間に知りたい あげパンのはなし



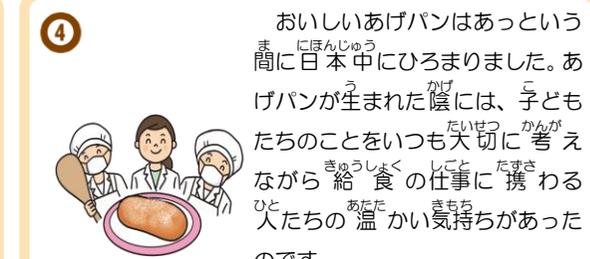
① お父さんやお母さんに「子どもの頃、好きだった給食なに？」と聞くと、真っ先に挙がるのが「あげパン」です。このあげパン、どのようにして誕生したか知っていますか？



② あげパンが生まれたのは、戦争が終わり、給食が再び始まって間もない東京都大田区。当時の子どもたちはいつもおなかをすかせていました。給食はそんな子どもたちにとって一番の楽しみでした。



③ ある日、かぜで学校を休んだ子がいました。調理員さんは「せっかくだの楽しみにしてたのに…」と、残ったパンを揚げて砂糖をまぶし、包んでその子の家に届けてもらったそうです。



④ おいしいあげパンはあっという間に日本中にひろまりました。あげパンが生まれた際には、子どもたちのことをいつも大切に考えながら給食の仕事に携わる人たちの温かい気持ちがあったのです。